産業デザイン支援 ≫ 東海林養鶏場

人にも鶏にも思いやりを！卵で世の中を幸せにしたいという願いを形にしていくために

特に「黄身の余韻」は自慢の商品
ぜひ食べてみてください

東海林養鶏場
代表
東海林　肇 Shoji Hajime
〒013-0101
横手市平鹿町上吉田竹原50
TEL：0182-24-0511
ホームページ　Instagram

循環型養鶏で地域とのつながりを大切に

横手市平鹿町で昭和27年創業した東海林養鶏場は、地域とのつながりを大切にしながら、養鶏を続けている。鶏卵はコスト競争が激しく、大手は機械化して100万羽レベルの飼育をしている中、「ここで飼育出来る２万２千羽を大切にしています」と語る代表の東海林肇さんにお話しを伺った。

東海林養鶏場が立地する地域は、ほとんどが米農家だ。同社では15年程前から、農家の長年の悩みであった稲刈り後の籾殻を有効活用する循環型養鶏を始めた。鶏糞を籾殻と混ぜた「EMもみがら堆肥」を生産して地域に還元。また、生産過程で出た残渣は鶏の餌にし、そうしてできた美味しい卵で食べた方々を幸せに―。

「鶏、人、もの、関係する全てに思いやりを」と理念を掲げる東海林社長は、卵業界に多いBtoBのビジネスだけではなく、より人とのつながりを感じられるBtoCに力を入れ、自社での直売や地元の道の駅での販売等を積極的に行っている。

卵を通してワクワクするような体験を

今回活性化センターへ相談したのも、横手市のふるさと納税返礼品として出荷する際、情報ツールを同梱して顧客と繋がりたいと考えたからだ。センターの相談員とともに考案した「東海林養鶏場通信」は昨年11月から発行を開始。養鶏場スタッフの手書きイラストも入り、地域や動物への愛情、温かみを感じさせる内容を消費者へお届けしている。

「当社のおいしい卵を通して、もっと生活にワクワク感をもってほしい。贈り物にしたいと思っていただきたい」と東海林さん。ワクワク感を伝える工夫が施された商品名やデザインは、INPIT知財総合支援窓口も活用しながらすべて商標登録を済ませているという。

現在は、改良を加え5年をかけて開発した大人気商品「黄身の余韻」に続き、現在も新しい商品を考案中だという。県内だけではなく、県外、そしていつかは外国でも食べてもらいたいという夢に向かい、これからも突き進む。

▶活用事例
産業デザイン支援

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言やデザイナーとのマッチング、コーディネートを支援します。

［お問い合わせ］
知財・デザイン支援課
TEL. 018-860-5614

県内での認知を上げるため道の駅十文字に売り場を設置。
「黄身の余韻」をはじめ、親鳥・こまち美鶏の加工品も販売中。

羽数が少ないからこそ、人の手による採卵を行っている。
ふたたま（双子の卵）を選別できるのも、このためだ。

鶏にも優しくというモットーのもと、
アニマルウェルフェアも意識して飼育している。